

事務事業評価表

平成13年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042 (769) 8240
担当部課名	環境保全部	環境対策	課	
事務事業名	相模原の環境をよくする会補助金		事業コード	21110

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	人と自然にやさしい地域社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	地球環境の保全に向けた取り組み	~63
施策名	第1施策	総合的な環境施策の推進	

2 実施根拠及び関連法令等

相模原市環境基本条例、相模原市環境基本計画、相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則
--

3 事業概要

(1) 事業の目的 公害を未然に防止し、豊かな自然を守り、うるおいのある生活環境づくりに努め、もって快適な環境の創造に寄与することを目的とした事業所団体に助成を行うことにより、事業者と行政が一体となって環境の保全と創造に寄与する。		(2) 対象(誰、何) 市内の工場、事業所等が会員となっている団体	
		対象数	1団体
(3) 平成13年度事業の内容 通常総会(1回)、役員会(5回)、広報委員会(3回)、事業委員会(2回)、調査委員会(2回)、河川生物相調査部会(2回)をそれぞれ開催 環境フェア2001、河川生物相調査(2回)、環境セミナー、夏休み環境教室、自然観察ウォッチング(3回)、スターウォッチング、河川浄化啓発用看板の設置、緑化事業、魚類の放流、環境保全街頭キャンペーン、環境保全意識アンケート調査、会報・かわら版・チラシの発行などを実施		(4) 総合計画・実施計画における概要 なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~ 年度

4 評価指標

指標名	ホタル教室参加率	夏休み環境教室参加率	事業等への役員出席率
指標式	参加人数31/募集人数30×100	参加人数16/募集人数30×100	延べ出席役員数324/延べ役員数384×100
指標設定の意図	市民の参加状況を把握することにより、環境保全活動の啓発の成果を表す。	市民の参加状況を把握することにより、環境保全活動の成果を表す。	役員の仕事等への出席を把握することにより、活動への取り組みの成果を表す。

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標	100	95	a	103	b
指標	138	48	c	53	d
指標	83	82	e	84	f
事業費	決算(予算)額	360	360	360	360
	人員・時間数	600時間	600時間	600時間	600時間
	人件費	2,508	2,508	2,508	2,508
	その他経費				
	合計	2,868	2,868	2,868	2,868
特定財源					

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 80.1%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%>)		

$\frac{a}{b} = \frac{103.0}{100.0} \times 100 = 103.0\%$	$\frac{c}{d} = \frac{53.0}{100.0} \times 100 = 53.0\%$	$\frac{e}{f} = \frac{84.4}{100.0} \times 100 = 84.4\%$
--	--	--

理由：参加者数が目標に達していないのは、当日の天候の影響、台風による実施日の変更によるものである。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由：環境保全活動を行っている団体であり、将来にわたって支援する必要がある。	
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由：景気の低迷等により退会する事業所等があり、会の予算が減少する中でこれまでどおり事業を進めていくために、現在の定額補助は妥当と考えられる。	
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由：県は、会に対し賛助金を交付しているが、会の構成が市内の工場、事業所となっているため、代替の可能性はない。	
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A : 満足できる	理由：会の事業は市民を対象にしているものが多く、植物、野鳥、天文、河川水質、ホテルなど多岐にわたっており、市民から評価されている。	
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由：河川生物相調査などの調査を積み重ねることによって、快適な環境の創造を推進していく上で有効である。	
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 団体の事務事業を効果的にPRすることにより、より多くの市民参加が期待できるとともに成果向上の余地がある。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 現在の定額補助を削減することは困難である。</p>

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	イベントや自然観察会、教室の開催、啓発物品の配布等により、市民の環境保全意識の高揚、環境保全活動に積極的に対応し、成果をあげているが、会員の退会対策など引き続き市の支援が必要である。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--